

9月22日(木)・10月7日(金)  
保育園児が安全運転を呼びかけ



「安全運転をお願いします」とドライバーに手作りのお守りを渡し、菊池保育園(上)とさくら保育園(右)の園児たち

菊池保育園の園児 17 人などが 22 日に野間口付近の国道 325 号沿いで、さくら保育園の園児 20 人などが 7 日に同園近くの国道 387 号沿いでそれぞれ車のドライバーに交通安全を呼びかけました。

9 月 21 日から 9 月 30 日にかけてあった「秋の全国交通安全運動」の一環として行われ、園児たちは「交通安全ルールを守りましょう」や「交通安全」と書かれた手作りのお守りを渡し、「安全運転をお願いします」と呼びかけました。

通りかかったドライバーたちは、園児からの突然のプレゼントと呼びかけに驚きながらも笑顔で答え、安全運転を再認識していました。

10月13日(木)ねんりんピックふくおか  
2005の弓道交流大会に向けて猛練習

今年の5月に熊本市水前寺体育館であった予選会を勝ち抜いた8人(監督含む)が、弓道の熊本県選抜チームに選ばれ、練習に励んでいます。

8人のうち2人は菊池市の渡邊鐵英さん(監督・富の原西)と迫 憲二さん(選手・富の原西)で、ほぼ毎朝、菊池弓友会のメンバーと一緒に菊池市弓道場で練習に励んでいます。

渡邊さんは「稽古をするたびに成績が上がっています。手ごたえはあるといいます」と、迫さんは「体調を十分に整えて試合に臨みたいですね」と話されました。

選手たちは 11 月 11 日(金)に出発して、12 日(土)から福岡市の博多の森弓道場で始まる大会に挑みます。皆さんの応援をお願いします。



菊池市弓道場で練習中の迫さん(手前)と渡邊さん(手前から2番目)

10月11日(火)・10月13日(木)  
花房小と隈府小の児童たちが  
アジア・アフリカ支援米を刈り取り

学校近くの田んぼで支援米の刈り取りをする花房小学校の児童たち



花房小学校と隈府小学校の児童たちが、アジア・アフリカの飢餓で苦しんでいる人たちに「少しでも手が差し延べられたら」と支援米を送るために、これまで育ててきた稲の刈り取りをそれぞれしました。

「食とみどり、水を守る菊池の会」(村上活芳会長)が毎年続けているもので、11 日(火)に花房小学校の全校児童 103 人が、学校近くの 10 アールの田んぼで黄色く実った稲をひとつひとつ丁寧に刈り取りました。

参加した児童たちは「これまで楽しく育ててきました。ザクッと切れるのが楽しいです」と話してくれました。

13 日(木)にも同じく隈府小で刈り取りがあり、2校で収穫された合計約 720kg の米は、来年 2 月に国連をとおしてカンボジアに送られます。

10月14日(金)七城中学校で稲刈り

七城中学校の学校田で、全校生徒 187 人や保護者などが参加して稲刈りがありました。

生徒たちはこれまで、地域の人の協力を得ながら稲の種まきや田植え、合鴨による管理などの作業を一貫して行ってきました。

各クラスの代表者でつくる栽培委員会の委員長河野智也くん(3年)が「今年はウンカなどの病虫害の被害が多いなかでしたが、私たちの田んぼにはほとんど被害はありませんでした。今日は稲刈り、頑張りましょう」とあいさつ。早速、もち米 10 アール、うるち米 20 アールが黄色く実った田んぼに各クラスごとに分かれて入り、ひとつひとつ丁寧に刈り取りました。

いろいろな人の努力や思いがこもった稲の刈り取りをする七城中学校の生徒たち



市議会議員や市職員を前に「ただ今帰りました」とあいさつする節子さん

10月6日(木)  
節子・クロソフスカ・ド・ローラさん表敬訪問

スイス在住で菊池一族の末えいにあたる節子・クロソフスカ・ド・ローラさんが、昨年に続き、まな娘春美さんを伴って菊池市を訪問しました。

節子さんは、20 世紀最後の巨匠と称された具象画家「バルテュス(1908 ~ 2001)」の妻で、自身も画家です。

今回は、10 月 5 日(水)から熊本市であった「節子のくらし展 和の心」の開催に併せての来訪となりました。

菊池市役所を訪れた節子さんと春美さんは、福村市長や村上助役などと懇談後、大会議室で市議会議員や市職員の歓迎を受けました。

福村市長が「お帰りなさい節子さん、春美さん。一年ぶりの菊池を楽しんでください。そして、ヨーロッパの地で菊池の名をアピールしてください」と歓迎すると、「ただ今帰りました」と応じた節子さんは「菊池の名と心は、いつまでも私の中に残っているものと思います」と話されました。

2人は菊池一族がまつられている菊池神社や「バルテュスと節子そして菊池展」が開催された菊池夢美術館も訪れました。



菊池神社で、春美さん(右)におみくじを説明する節子さん(左)

10月2日(日)菊池市金婚夫婦表彰式

菊池市金婚夫婦表彰式が文化会館でありました。今回は主に昭和 30 年に結婚した 177 組の皆さんを対象に、熊本日日新聞社主催の「第 47 回金婚夫婦表彰」と併せて行われました。

式典では、金婚夫婦を代表して芹川知直さん・蓉子さん夫妻(片川瀬)に、表彰状と記念品が授与され、中村正美さん・民子さん夫妻(遊蛇口)から謝辞が述べられました。

今回は式典の中で、参加者に 50 年の永きにわたり連れ添っているお互いへの感謝の言葉を伝えて頂き、「旦那さまから奥さまへの感謝の言葉」を古川邦夫さん(薬師)から奥さんの多恵子さんへ、また「奥さまから旦那さまへの感謝の言葉」を瀬田禮子さん(新古閑)から旦那さんの健一さんへ伝えて頂きました。

また、アトラクションでは、胡弓演奏者の劉 福君さんとピアニストの古閑恵美さんを招いて、胡弓とピアノの共演もありました。



「旦那さまから奥さまへの感謝の言葉」を伝える古川邦夫さん(左)とそれを聞く奥さんの多恵子さん(右)

10月7日(金)新明保育園の秋祭り



元氣よくみこしを担いで旭志総合支所前を練り歩く園児たち

旭志にある新明保育園で秋祭りがあり、園児 70 人が参加して、旭志総合支所から津留地区の天満宮までの間を練り歩きました。

園児たちは、みこしなどを「ワッショイ、ワッショイ」と掛け声をかけながら一生懸命に担ぎ、秋の祭りを堪能しました。

同園の秋祭りは、毎年この時期に行われています。

旭志地区の新規作物「太秋」が初出荷

平成 13 年度から遊休農地をなくす運動の一環として旭志地区で推進している新規作物の柿や栗、スモモ、ブルーベリーのうち、柿の「太秋(たいしゅう)」が今年から実り、初の収穫を迎えています。

太秋は重さ 400g 程度で、サクッとした独特の肉質を持ち、果汁が多く、極めて甘い柿で、熟期は 10 月中旬～ 10 月下旬です。

今年の出荷数は少ないものの、来年以降はたくさんのお出荷数が期待されています。



「富有柿」よりひとまわり大きい甘柿の「太秋」